



挨拶する宮崎会長

●中学卒業まで通院に助成を。「乳幼児等医療費助成制度の年齢拡大を求める署名」に「協力をお願いします。

遠くなると補聴器の必要があるが、高額です。市は助成すべきだが、いい答えを出してもいません。介護施設は利用者が減ると運営が厳しくなり、もっと支援が必要です。こうした問題をちゃんと取りあげて貰えるのが共産党です」と強調。共産党議員が、国でも地方自治体でも多く必要だとし、コロナに負けないでつながりを大事にしてがんばろうと呼びかけました。

府はコロナのレベルを2類から5類にしようとしているが、地域に密着した医療体制の確立と職員の確保が先であります。戦争の準備でなく、平和の準備をすることが根幹です。共産党は住民の要望を聞いて議会に届けています。

一人でも多く広めてほしい」といさつしました。

宮崎苦小牧後援会長は、「高齢者が、コロナ禍で外に出るのは買い物と病院だけ、フレイル（加齢による身体機能や心身が老い衰える状態）に陥りがちです。電話でしか会

話できない状況もあり、耳が遠くなると補聴器の必要があるが、高額です。市は助成すべきだが、いい答えを出してもいません。介護施設は利用者が減ると運営が厳しくなり、

日本共産党苦小牧中部後援会は22日、事務所開きを行い、コロナ対策で参加者を30人に人数制限して開催しました。

斎千加子後援会長は、「政

府はコロナのレベルを2類から5類にしようとしているが、地域に密着した医療体制の確立と職員の確保が先であります。戦争の準備でなく、平和の準備をすることが根幹です。共産党は住民の要望を聞いて議会に届けています。

一人でも多く広めてほしい」といさつしました。

原啓司市議は、勤医協病院を25年勤めての議員活動と自己紹介し、「国の社会保障削減政策により、医療、介護については先行き厳しく、安心して健康づくりできる環境をつくりたい」「共産党市議団として、子育て支援充実とゼ

ル駆逐艦「ラファエル・ペラルタ」（9217t、乗組員319人）が30日から2月3日までの苦小牧港寄港について、受け入れを発表しました。

苦小牧市は、米海軍ミサイ

ル駆逐艦「ラファエル・ペラルタ」（9217t、乗組員319人）が30日から2月3日までの苦小牧港寄港について、受け入れを発表しました。

苦小牧港への米艦船寄港は6隻目となります。

平和な商業港に軍艦は必要ない」と入港を認めないよう要請していた「苦小牧港の軍港化阻止実行委員会」（横山傑委員長）は、当日朝に岸壁近くの広場で抗議行動を行います。

政府が敵基地攻撃能力の保持を含む大軍拡を決めた最中の寄港です。

なお、同時に隣り合わせで連合系の団体も抗議活動を予定しています。

実行委は、市民のみなさん

苦小牧中部後援会が事務所開き 命守る市政に

医療充実、健康で安心なまちを

市議団で頑張つてきましたが、みんなさんの声を届けるには質問する時間が足りません。ぜひ共産党的躍進のため力を貸してください」と力を入れました。

日本共産党的西委員長は、4人の市議団実現で市政が変わると訴え。原議員の勤医協時代の同僚から病院職員や市民の健康と命を守ることで共産党議員の存在が心強いと激励しました。

渡辺満原選対本部長は、「岩倉市長が不適切発言をくり返すのは、共産党議員が増えると質問時間が増えて困るからです。何としても4人の市議団をつくり、医療・福祉・介護を充実させましょう」と強く呼びかけました。

生業と暮らし守るためにインボイス実施中止を日本共産党

新しい戦前にさせない



遠くなると補聴器の必要があるが、高額です。市は助成すべきだが、いい答えを出してもいません。介護施設は利用者が減ると運営が厳しくなり、

日本共産党苦小牧中部後援会は22日、事務所開きを行い、コロナ対策で参加者を30人に人数制限して開催しました。

斎千加子後援会長は、「政

府はコロナのレベルを2類から5類にしようとしているが、地域に密着した医療体制の確立と職員の確保が先であります。戦争の準備でなく、平和の準備をすることが根幹です。共産党は住民の要望を聞いて議会に届けています。

一人でも多く広めてほしい」といさつしました。

原啓司市議は、勤医協病院を25年勤めての議員活動と自己紹介し、「国の社会保障削減政策により、医療、介護については先行き厳しく、安心して健康づくりできる環境をつくりたい」「共産党市議団として、子育て支援充実とゼ

ル駆逐艦「ラファエル・ペラルタ」（9217t、乗組員319人）が30日から2月3日までの苦小牧港寄港について、受け入れを発表しました。

苦小牧市は、米海軍ミサイル駆逐艦「ラファエル・ペラルタ」（9217t、乗組員319人）が30日から2月3日までの苦小牧港寄港について、受け入れを発表しました。

苦小牧港への米艦船寄港は6隻目となります。

平和な商業港に軍艦は必要ない」と入港を認めないよう要請していた「苦小牧港の軍港化阻止実行委員会」（横山傑委員長）は、当日朝に岸壁近くの広場で抗議行動を行います。

政府が敵基地攻撃能力の保持を含む大軍拡を決めた最中の寄港です。

なお、同時に隣り合わせで連合系の団体も抗議活動を予定しています。

実行委は、市民のみなさん

国会かけある記 いわぶち友です

新しい戦前にさせない

先日「ラーゲリより愛を込めて」という映画を観てきました。「ラーゲリ」とは収容所のこと。第2次世界大戦後、ソ連に抑留された山本幡護を充実させましょう」と強く呼びかけました。

いま街頭で訴えていると、若い人たちや男性の足がとまるという話をよく聞きました。戦争は遠い昔の話でも、映画のなかのことでもなく、自分たちの問題だと感じている方が増えているのではないか。

とにかく失わず、仲間を励まし続けた山本さんの姿が描かれています。戦争がいかに人間性を奪うものなのか、家族や仲間の存在や文化を楽しむ心が生きることにつながっています。

23日から通常国会が始まりました。この国会で大きく問われるのが戦争する国づくりをめぐる問題です。岸田政権は、選挙で信を問うこともせず、国会にも国民にもともな説明もしないままに、閣議決定だけで強行する。しかも真っ先にアメリカに報告し、歓迎される。「いつたいどの国の首相なの」「勝手に決めるな」という声があがっています。

「新しい戦前」にさせないために、みなさんと世論と運動を広げるとともに、大いに論戦したい思っています。

岩渕友（いわぶち・とも）
日本共産党参議院議員

2023年1月29日(日) 第2426号

月4回日曜日発行 購読料1ヶ月100円(税込)